

Ⅲ－１ 社会資本整備の重点化

- これまでの取り組みにより、一定の社会資本ストックが築き上げられてきたものの、一方では、まだ整備が行き届いていない部分もあり、今後も引き続き、改善していく必要があります。
- また、限られた予算を有効活用し、「ひろしま未来チャレンジプラン」が目指す姿を実現するためには、まずは、これまで築き上げてきた社会資本が有する「強み」を活用することをベースとし、その上で、なお不足する部分について重点投資していくことが最も効果的です。
- こうした観点から「強み」を活かした短期集中戦略を積極的に展開し「弱み」となっている部分についても、創意工夫を加えながら「弱み」を克服する長期継続戦略を展開するなど、総合的な戦略の中で、あらゆる段階でコスト削減を検討しながら、更なる「選択と集中」に取り組んでいきます。
- なお、戦略の構築に当たっては、SWOT分析法を用いています。

(SWOT分析の詳細は、42～43pをご覧ください。)



社会潮流・地理的特性等

- ◆人口減少・少子高齢化
- ◆経済活動を始めとするグローバル化 など

社会資本の現状

- ◆整備が進んでおり、潜在機能を有している社会資本
- ◆整備が行き届いておらず、今後も改善すべき社会資本

10年後の社会資本のあるべき姿

- ◆アジアとの取引が活発化し、アジアを中心とする海外成長市場の獲得が進んでいます。
- ◆県境を越えて「ひと」が集まり、中四国地方における広島県の中核拠点性が向上しています。
- ◆企業活動を支える物流基盤の充実により、経済基盤の強化が進んでいます。
- ◆陸・海・空からのアクセス基盤が整備され、裾野の広い観光産業が発展しています。
- ◆観光インフラが整備され、「ひろしまブランド」や「瀬戸内ブランド」を確立しています。
- ◆再生可能エネルギーが利用され、環境への負荷の少ない持続可能な社会の仕組みづくりが進んでいます。
- ◆災害による被害を最小限にするための県土づくりが進んでいます。
- ◆支援や介護が必要な人が地域で安心して生活できる環境の整備が進んでいます。
- ◆安全で安心な交通環境の整備が進み、交通事故が減少しています。
- ◆都市地域において、機能的で利便性の高いコンパクトなまちづくりの形成が進んでいます。
- ◆中山間地域において、日常生活圏が維持され、都市的サービスを受用できる環境の整備が進んでいます。

社会資本整備の重点化

～広島県の底力を最大限発揮するための戦略的投資

課題抽出と戦略構築

強みを活かした短期集中戦略
 [概ね前半5年間で集中的に取り組むもの]
 本県の底力を発揮していくため、本県の強みをより活かせる分野に短期集中的な戦略を展開

社会ニーズに応じた中期戦略
 [計画中盤(概ね3~7年目)には軌道に乗るように取り組むもの]
 新たな社会ニーズに対応していくため、社会情勢の変化も踏まえながら中期的な戦略を展開

創意工夫を加えた長期戦略
 [10年間継続して着実に取り組むもの]
 弱みや脅威を克服するため、ソフト対策を充実し、予防保全的な維持管理などの創意工夫を加えながら長期的な戦略を展開
 ただし、被災箇所の防災対策等については、短期集中的な取り組みを実施

- ①**広域的な交流・連携基盤の強化**
 - ・企業活動を支える物流基盤の充実
 - ・グローバルゲートウェイ機能の強化
 - ・「ひと・まち」をつなぐ広域道路ネットワークの構築
- ②**集客・交流機能の強化とブランド力向上**
 - ・県内の観光資源をつなぐネットワーク形成
 - ・観光インフラの充実
 - ・新たな魅力を創出するみなと環境の整備
 - ・空港施設機能の充実等
- ③**環境保全と循環型社会の構築**
 - ・地域の実情に応じた効率的な污水处理
 - ・下水道未利用エネルギーの活用
 - ・河川の底質浄化，海域環境の改善（藻場・干潟）
 - ・水資源の適正管理
- ④**防災・減災対策の充実・強化**
 - ・安全・安心な県土づくり
 - ・緊急輸送ネットワークの充実
 - ・耐震化促進による地震防災対策
- ⑤**自立した生活ができる環境の整備**
 - ・ニーズを踏まえた住環境の整備
 - ・県営住宅の再編整備
 - ・主要施設周辺のバリアフリー化の推進
- ⑥**総合的な交通安全対策の推進**
 - ・安心できる道路空間の形成（歩道）
 - ・放置艇への対策（船舶航行の安全確保）
- ⑦**持続可能なまちづくり**
 - ア 都市地域
 - ・用途地域・地区計画等の都市計画制度の活用による土地利用の規制と誘導
 - ・中心市街地の活性化に資する市街地開発事業などの推進
 - ・渋滞を緩和する道路の改善及び市街地を一体化する鉄道との立体交差化
 - ・交通需要マネジメント等の推進
 - イ 中山間地域
 - ・中心市と周辺地域の連携を支えるインフラ整備
 - ・市町中心地とその周辺部の連携を強化する合併後の地域づくりを支えるインフラ整備
 - ・中山間地域の自立を支える交通円滑化と都市的サービスを楽しむことができる広域交通網等の確保

(1) 強みを活かした短期集中戦略

中国をはじめ東アジア地域では著しく経済が成長しており、経済活動のグローバル化がますます進展しています。

また、平成20年代半ばに、尾道松江線や東広島呉自動車道などが一斉に開通することにより、県境を越える井桁状の高速道路ネットワークが完成し、本県の中枢性の向上が大きく期待されています。

さらには、本県は2つの世界遺産や風光明媚な瀬戸内海の多島美など豊かで魅力ある観光資源を有しています。

本県の底力を最大限発揮していくため、こうした強みや機会を活かせる分野に短期集中投資していきます。

重点化方針

1

～**広域的な交流・連携基盤の強化** (新たな経済成長)

本県の新たな経済成長への挑戦を支えるため、アジアの経済成長や国際化の進展に合わせたグローバルゲートウェイ機能の強化を図ります。

また、広域的な行政需要への対応も視野に入れながら、井桁状の高速道路ネットワークとグローバルゲートウェイや産業集積地をつなぐ広域交通ネットワークを強化するなど、企業活動を支える物流機能の充実を図ります。

【主な取り組み】

- 企業活動を支える物流基盤の充実
 - ・ 広島都市圏における高速交通体系の確立
～広島高速3号線・5号線, (都)大洲橋青崎線(高速関連) など
 - ・ 物流機能を強化する広域交通ネットワークの構築
～一般国道2号松永道路・三原バイパス, (都)神辺水呑線(I期) など
 - ・ 県西部の物流拠点における広島市東西を結ぶ物流交通基盤の充実
～一般国道2号西条バイパス・安芸バイパス・西広島バイパス(廿日市高架), 広島港五日市地区臨港道路廿日市草津線 など
 - ・ 県東部の物流拠点港湾における水深不足の解消等, 荷役効率化の推進
～福山港箕沖地区(大型船舶の航路の水深確保), 尾道糸崎港機織地区(大型船舶の航路・停泊地の水深確保) など
- グローバルゲートウェイ機能の強化
 - ・ アジア地域への直行便の拡充
 - ・ アジア以遠の地域への国際ハブ空港(ソウル・台北・上海・成田・羽田)とのアクセス路線の強化
 - ・ 戦略的なポートセールスの展開とコンテナターミナルの24時間化, 港湾経営の民営化などによる港湾サービスの向上

- ・ 高速道路ネットワークとグローバルゲートウェイをつなぐ広域交通ネットワークの構築
 - ～中国横断自動車道尾道松江線，一般国道375号東広島呉道路 など
- 「ひと・まち」をつなぐ広域道路ネットワークの構築
 - ・ 高速道路ネットワークと地域資源をつなぎ，中枢・中核都市圏の高次都市機能を強化
 - ～一般国道2号赤坂バイパス，(主)矢野安浦線(熊野町～東広島市黒瀬町)，(主)呉環状線(呉市郷原町) など

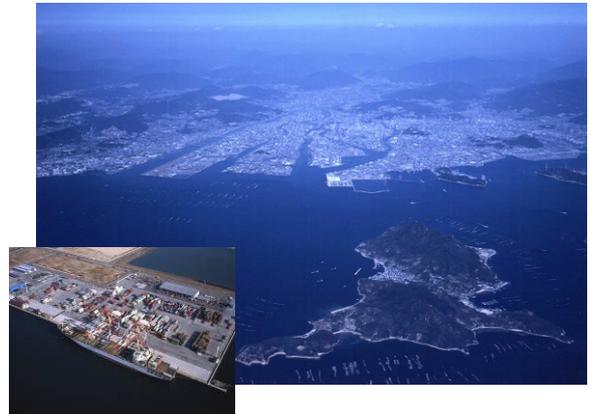
中国横断自動車道尾道松江線



広島高速道路(2号線)



広島港



福山港



広島空港



重点化方針

2

～**集客・交流機能の強化とブランド力向上**（新たな経済成長）

本県の豊かで魅力ある観光資源をいっそう活かすため、高速道路ネットワークと観光資源をつなぐ交通ネットワークの強化に取り組むとともに、観光地周辺の道路拡幅や、港湾施設を活用した賑わい空間づくりなどを進め、観光インフラの充実による本県のブランド力の更なる向上を図ります。

【主な取り組み】

- 県内の観光資源をつなぐネットワーク形成
 - ・ 高速道路ネットワークと観光資源をつなぐネットワーク化の促進
～一般国道487号警固屋音戸バイパス, (都)長江線 など
- 観光インフラの充実
 - ・ 世界遺産「厳島神社」の玄関口における港湾施設の充実
～厳島港宮島口地区（旅客棧橋等整備）
 - ・ 県有数の観光地「尾道」の港湾施設の利活用による賑わいづくりの推進
～尾道糸崎港西御所地区（緑地等賑わい施設整備）
 - ・ しまなみ海道のサイクリングロードの充実
- 新たな魅力を創出するみなと環境の整備
 - ・ 港湾施設の利活用等による観光インフラ整備（クルージング支援の充実）
- 空港施設機能の充実等
 - ・ 国際定期路線の拡充や、東京（羽田）線のシャトル化などに向けた空港施設機能・空港アクセス機能の充実

国道487号(警固屋音戸バイパス)橋梁整備



港湾上屋を利用転換した賑わい施設と寄港した日本丸



広島空港の航空ネットワーク



(2) 社会ニーズに応じた中期戦略

大気汚染、水質汚濁など地域の環境問題に加え、地球温暖化など地球規模で環境を考えなければならない時代を迎えて、自然環境との調和や、資源・エネルギーの効率的利用などが、より一層強く求められています。

こうした新たな社会ニーズに対応する分野については、社会情勢の変化も踏まえながら、中期的な戦略を展開していきます。

重点化方針

3

～環境保全と循環型社会の構築（安心な暮らしづくり）

下水道の普及を進めることにより、海や川の自然環境の保全に取り組むとともに、河川の底質改善、海域環境の改善（藻場・干潟）、水資源の適正管理を図るなど、地球環境に配慮した取り組みを進めます。

また、循環型社会の構築へ向けて、汚泥バイオマスエネルギーなどによる未利用エネルギーの活用を図ります。

【主な取り組み】

- 地域の実情に応じた効率的な汚水処理
 - ・汚水処理システムの効率化（浄化槽など代替案の活用）
- 下水道未利用エネルギーの活用
 - ・最新の環境技術を応用した消化ガス発電設備の増設
～太田川流域下水道（東部浄化センター下水汚泥資源化設備）
 - ・下水汚泥のバイオマスエネルギーとしての有効活用
～芦田川流域下水道（芦田川浄化センター下水汚泥資源化設備）
- 河川の底質浄化，海域環境の改善（藻場・干潟）
 - ・河床の底質改善や失われた藻場・干潟等の浅海域の保全・再生
～広島港五日市地区(干潟造成)，福山港内港地区(底質改善) など
- 水資源の適正管理
 - ・多目的ダムの整備による渇水対策
～庄原ダム など

下水処理水を利用した修景池
(東部浄化センター)



広島港五日市干潟 (水鳥の楽園)



「福富ダム」と「しゃくなげ大橋」



(3) 創意工夫を加えた長期戦略

少子・高齢化社会の到来や、低密度市街地の拡大や都市機能の拡散などにより、地域コミュニティの崩壊や都市機能の低下などが懸念されています。

また、近年、大規模な地震が全国各地で発生しており、本県においても安芸灘～伊予灘地震の切迫性が報告されているほか、五日市断層や己斐断層などによる大規模地震発生が懸念されています。

さらには、異常気象による局地的豪雨の頻発と台風の大型化により、土砂災害・水害の発生リスクが増大しています。

このため、これまでも緊急性の高い対策から順次、実施してきましたが、将来、深刻な影響を及ぼすおそれがあるこうした弱みや脅威を克服するためには、ソフト対策を充実し、施設の長寿命化を図る予防保全的な維持管理の推進などの創意工夫も加えながら長期的に対応していく必要があります。

なお、長期戦略の中でも、被災箇所の防災対策等については、短期集中的に取り組みます。

重点化方針

4

～**防災・減災対策の充実・強化**（安心な暮らしづくり）

多発している局地的豪雨への対応なども踏まえながら、優先度の高い箇所から着実に、「安全・安心な県土づくり」に向けたソフト対策を含めた総合的な防災対策を実施していきます。

とりわけ、近年、被災した箇所で、特に人的被害のあった箇所については、早期に復旧を図るとともに、原形復旧にとどまらず、再度災害防止の観点から集中的に改良復旧に取り組みます。

【主な取り組み】

- 安全・安心な県土づくり
 - ・ 災害の発生状況を踏まえ緊急度の高い箇所から防災対策を実施

高潮対応：H3, 16 広島市, H16 竹原市, H16 福山市, H16 尾道市 洪水対応：H11 広島市, H11 廿日市市, H11 竹原市, H7, 20, 21 福山市 土砂災害対策：H11.6.29 豪雨, H22.7 豪雨

 - ～二級河川本川, 広島港海岸, 福山港海岸, 尾道糸崎港海岸(高潮対策事業)など
 - ・ 災害時要援護者関連施設等を保全対象に含む土砂災害危険箇所の整備を重点化
 - ・ ハザードマップを活用した市町の警戒避難体制確立の支援の促進
 - ・ 土砂災害警戒区域等の指定による市町の警戒避難体制支援の促進や新規宅地開発の抑制
 - ・ 短時間局所集中豪雨などに対応した防災情報の住民への伝達や活用支援の促進
- 緊急輸送ネットワークの充実
 - ・ 災害等有事の際に緊急車両の輸送路となる緊急輸送道路ネットワークの充実
 - ～(主)呉平谷線(呉市上二河～此原), 一般国道186号御園バイパス, (主)浜田八重可部線(北広島町川井) など
- 耐震化促進による地震防災対策
 - ・ 緊急輸送道路における橋梁耐震補強の推進
 - ～一般国道185号三原大橋, 一般国道317号尾道大橋 など
 - ・ 港湾施設の耐震化の推進
 - ～広島港五日市地区(耐震岸壁)
 - ・ 住宅, 建築物の耐震化の推進

H22.7 豪雨の被災地域（庄原市）

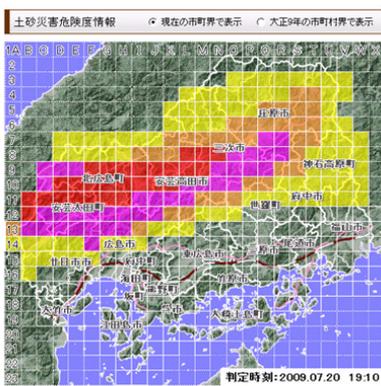
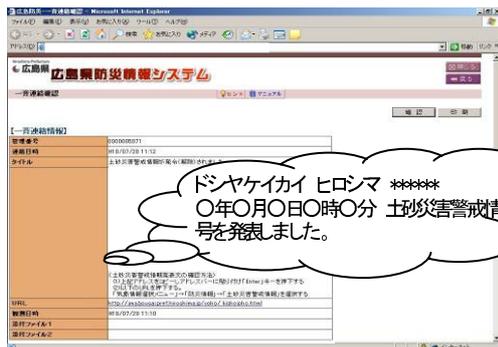


災害時要援護者関連施設を守る事業



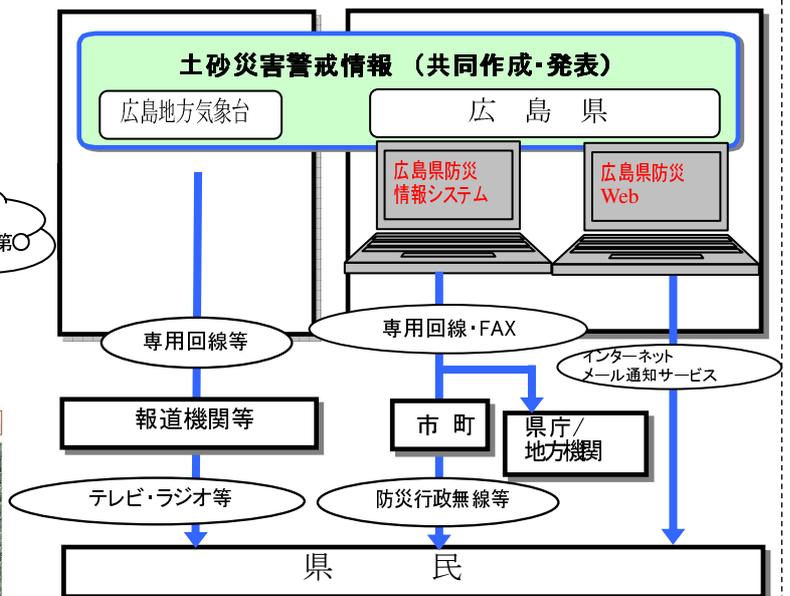
土砂災害警戒情報の伝達経路

- 広島地方気象台より、報道機関を通じて県民へ
- 広島県より、県防災情報システムにより市町へ、市町より県民へ
- 広島県より、インターネットのホームページ、メール通知サービスにより県民へ



土砂災害危険度情報 凡例

- 現状で基準超過 現在の降雨指標が、土砂災害発生の目安となる値に到達した状態です。
- 1時間以内に基準 降雨指標が、今後1時間以内に土砂災害発生の目安となる値に到達すると予測される状態です。
- 2時間以内に基準 降雨指標が、今後2時間以内に土砂災害発生の目安となる値に到達すると予測される状態です。
- 3時間以内に基準 降雨指標が、今後3時間以内に土砂災害発生の目安となる値に到達すると予測される状態です。



重点化方針

5

～**自立した生活ができる環境の整備**（安心な暮らしづくり）

人口減少社会や、長期にわたる景気の低迷を背景として、今後とも住宅セーフティネットの重要性が増していることに配慮しつつ、県民の日常生活を維持していくために、県営住宅の再編整備を進めていきます。

また、高齢化社会の中、支援や介護が必要な人が地域で安心して生活できるようにバリアフリー化を進めるなど、誰もが暮らしやすい環境を整備します。

【主な取り組み】

- ニーズを踏まえた住環境の整備
 - ・ 既設県営住宅の高齢者向け改善
～県営日吉台住宅
 - ・ 高齢者等の入居を受け入れる民間賃貸住宅の供給促進
 - ・ 子育てに配慮した住宅の普及促進
- 県営住宅の再編整備
 - ・ 建替統廃合の推進
～県営吉島住宅，県営舟入住宅
- 主要施設周辺のバリアフリー化の推進
 - ・ 港湾旅客ターミナル等のバリアフリー化の推進
～厳島港胡町地区（旅客栈橋整備），宮島口地区（旅客栈橋等整備）〔再掲〕

子育て支援住宅（県営坂地区住宅）



重点化方針

6

～**総合的な交通安全対策の推進**（安心な暮らしづくり）

通学路や事故危険箇所を中心に，歩道の新設や拡幅，バリアフリー化などを進めます。また，放置艇対策により船舶航行の安全を確保します。

【主な取り組み】

- 安心できる道路空間の形成（歩道）
 - ・ 歩道の新設，拡幅及び段差・勾配の解消による歩行空間のバリアフリー化，通学路の安全確保
～一般国道2号（廿日市駅前地区），一般国道183号（山内～上原），（主）尾道三原線（三原市） など
- 放置艇への対策（船舶航行の安全確保）
 - ・ 船舶係留施設整備に合わせた重点的撤去区域内の放置艇の一掃
～福山港一文字地区（係留施設整備）

国道2号（廿日市地区）



ボートパーク広島（広島港吉島地区）



重点化方針

7

～持続可能なまちづくり（豊かな地域づくり）

ア 都市地域

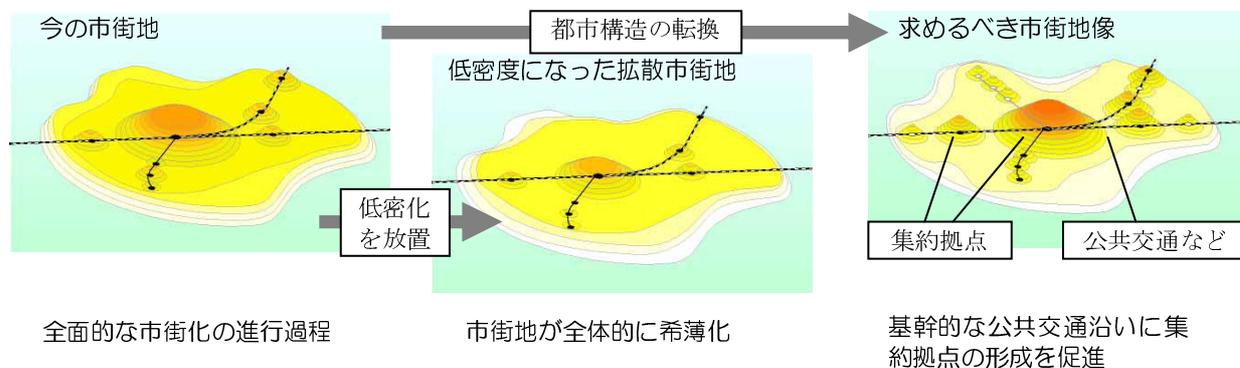
少子・高齢化，人口減少が進む中にあるには，拡散している機能等を集約し，高齢者や車を運転できない人にとっても利便性の高いコンパクトなまちへの転換を図ることで，インフラの維持コストを抑制することが求められます。

こうした観点から，効率的なまちづくりを進めるため，都市計画制度の積極的な運用により市街地の拡大を抑制する一方で，市街地の有効な土地利用を促進し，コンパクトで住みやすく豊かなまちづくりを進めるとともに，円滑な都市活動を支え，地域活動の活性化を図ります。

【主な取り組み】

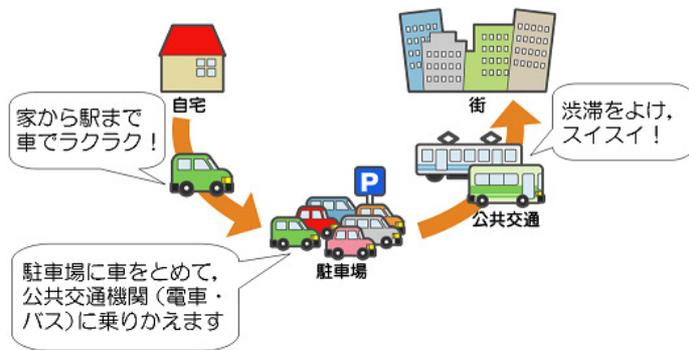
- 用途地域・地区計画等の都市計画制度の活用による土地利用の規制と誘導
 - ・都市計画区域マスタープランによる都市の将来像の提示
 - ・容積率の緩和など，都市計画制度の活用による合理的な土地利用の推進
- 中心市街地の活性化に資する市街地開発事業などの推進
 - ～広島駅南口Bブロック地区，広島駅南口Cブロック地区，福山市伏見町地区
- 渋滞を緩和する道路の改善及び市街地を一体化する鉄道との立体交差化
 - ～（都）忠海中央線，（都）廿日市駅通線，（都）広島市東部地区連続立体交差 など
- 交通需要マネジメント等の推進
 - ・パーク＆ライドの取組推進やノーマイカー運動による渋滞緩和
 - ・公共交通機関や自転車への転換を誘導

コンパクトなまちづくりへの誘導〔イメージ〕



都市機能の集積を促進する拠点と都市内のその他の地域とを公共交通を基本に有機的に連携させる拠点ネットワーク型の「集約型都市構造」への誘導

パーク&ライド〔イメージ〕



広島駅南口Bブロック地区
市街地再開発事業のイメージパース



イ 中山間地域

中山間地域や島しょ部では、医療機関へのアクセスに時間を要する地域があるほか、産業の衰退による就業機会の減少などにより、若者の転出等、人口流出を断ち切れず、若年人口の減少に伴い、商店等の撤退、休・廃業など、日常生活に欠かすことのできない機能も縮小するなど、地域力の低下をもたらしています。

中山間地域や島しょ部においては、どの地域に住んでいても必要最低限の公共サービスが得られる、いわゆるシビルミニマムの観点から、地域の自立を支える生活交通の円滑化・地域連携促進や、中心市と周辺地域の機能連携を促進し、地域社会の活性化に努めます。

【主な取り組み】

- 中心市と周辺地域の連携を支えるインフラ整備
 - ・ 幹線道路等整備による中山間地域の活性化
～一般国道183号三次拡幅 など
 - ・ 島しょ部等の交通結節点となる港湾機能の充実
～巖島港胡町地区(浮棧橋)、中田港中町地区(浮棧橋) など
- 市町中心地とその周辺部の連携を強化する合併後の地域づくりを支えるインフラ整備
～一般国道314号東城バイパス、(主)吉舎油木線(神石高原町小島) など

- 中山間地域の自立を支える交通円滑化と都市的サービスを楽しむことができる広域交通網等の確保
 - ・バス路線など住民生活に欠かすことのできない生活道路の改良
 - ～(主)西城比和線(庄原市西城町黒谷) など
 - ・1.5車線化, 待避所の設置などによる拠点(市町中心地)へのアクセス道の改良

中山間地域のバス離合困難



地域幹線道路整備による中山間地域の活性化〔イメージ〕

